ランチョンセミナー10

11 月 16 日（日）11:30-12:30　第 4 会場（3F 中会議室 301B）

共催：オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社

災害医療と臨床検査～災害時も検査を止めないために～

座長：高橋正人（オーソ･クリニカル･ダイアグノスティックス(株)北関東営業所）

演者：髙安恵幸（オーソ･クリニカル･ダイアグノスティックス(株)マーケティング部
クリニカルラボラトリー/POCT･マーケティンググループ）

近年、日本では阪神淡路大震災や東日本大震災、熊本地震、能登半島地震、豪雨や台風など大規模災害が頻発しています。DMAT や EMIS など救急医療体制は整備されつつありますが、災害拠点病院の指定要件も改定され、医療機関全体でライフラインの確保が課題となっています。特に水は復旧が遅れることが多く、外部資源への依存だけでなく、自施設での備蓄や節約も必要です。災害時には急性期患者だけでなく慢性疾患患者の検査需要も高まり、患者数は通常の 3～5 倍に増加します。そのため、日常的に使用する分析装置を災害時にも稼働できるようにすることが重要です。水を使わない機器の導入や POCT の補完利用を含め、平時からルーチンに使用しておくことで誰でも対応できる体制が求められます。また、災害時緊急検査 10 項目を設定し、常に 10 日分の試薬を備蓄するなどの準備により、臨床検査を中断せず医療提供を継続することが可能となります。